

奈良市文化振興計画 事業評価シート(平成29年度)

事業名		展覧会「開館25周年記念 入江泰吉 菊池寛賞受賞作品展」		担当課 施設名	(入江泰吉記念奈良市写真美術館)
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-④
	基本施策	2-05	文化振興		
	施策	2-05-01	文化の振興		
実施形態	単発・ 継続	事業開始年	平成4年度	実施回数	1回
日時	平成29年7月22日～8月27日		会場	入江泰吉記念奈良市写真美術館	
目的	テーマを替えながら一年を通して写真作品を展示し、奈良を訪れる方々に、入江作品をはじめ多様な写真芸術作品を鑑賞していただく。				
内容	入江泰吉記念奈良市写真美術館の開館25周年を記念して入江泰吉写真展を開催。本展は昭和51年に「古色大和路」「万葉大和路」「花大和」の三部作で菊池寛賞を受賞した作品を中心に展示構成します。				
事業費(円)					
			歳入		歳出
予算	市費(指定管理料等)	901,000	その他収入 (事業収入等)	901,000	
決算	市費(指定管理料等)	705,000	その他収入 (事業収入等)	705,000	
事業成果					
アンケートの集計		配布数: 配布なし (観覧者数: 3,350人)	回収数: 63件	回収率: 1.88% (観覧者数との比率)	
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)		
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	目標を達成した。 目標値: 観覧者数2,700名 実績値: 観覧者数: 3,350名		
	参加者満足度	4	アンケートにて、96%のお客様から「とても良い」・「良い」の評価をいただいた。		
	市民参画・協働の成果はあったか	3	学芸員による作品解説を開催し、多くの方々にご参加いただいた。		
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	長年入江泰吉氏の作品や奈良の写真文化等を研究する学芸員が監修する展覧会であった。		
	ターゲットを意識した企画であったか	4	全国から奈良へお越しになる観光客をターゲットにした展覧会であり、想定どおり多くのお客様にご来館いただけた。		
総合評価(自動計算)		4			
参加者や協働相手からの意見		(参加者) ・今まで見た作品の中でも、今回がとても感動しました。何故なら説田解説員のお話を聞いたこと。写真に込められた意味の深さを知りました。写真の大きさが統一されていることも大きかったです。 (協働者) 協働者なし			
総括	評価年度の状況		改善案・次年度以降の目標		
	近年は、展示室を分割し入江泰吉作品展とその他作家の作品展を同時開催してきたが、開館25周年の記念の年でもあったので、入江泰吉代表作を中心に全館とおして開催した。長年のリピーターや往年の入江泰吉ファンからの評価は高く、また若い世代にも改めて入江作品の良さを感じてもらえた。入江泰吉先生の功績の顕彰にもつながった。		入江泰吉記念という冠のついた写真美術館であるので、今後も入江作品の評価を高めるような作品展を展開していきたい。		

奈良市文化振興計画 事業評価シート(平成29年度)

事業名		展覧会「本橋成一 在り処」展		担当課 施設名	(入江泰吉記念奈良市写真美術館)
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-④
	基本施策	2-05	文化振興		
	施策	2-05-01	文化の振興		
実施形態	単発・ 継続	事業開始年	平成4年度	実施回数	1回
日時	平成29年4月15日～7月17日		会場	入江泰吉記念奈良市写真美術館	
目的	テーマを替えながら一年を通して写真作品を展示し、奈良を訪れる方々に、入江作品をはじめ多様な写真芸術作品を鑑賞していただく。				
内容	本橋成一(1940年-)は1960年代から市井の人々の姿を写真と映画という二つの方法で記録してきたドキュメンタリー作家の作品展。また、代表作にチェルノブイリ原発事故の後もかの地で暮らす人々の日々を写し撮った作品があり、被曝した故郷をテーマとした本橋の写真は、3・11を経験したわれわれに切実なメッセージを投げかける作品を紹介。				
事業費(円)					
			歳入	歳出	
予算	市費(指定管理料等)	3,039,000	その他収入(事業収入等)	3,039,000	
決算	市費(指定管理料等)	2,598,000	その他収入(事業収入等)	2,598,000	
事業成果					
アンケートの集計			配布数: 配布なし (観覧者数: 6,122人)	回収数: 68件	回収率: 1.11% (観覧者数との比率)
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)		
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	目標を達成した。 目標値: 観覧者数5,500名 実績値: 観覧者数6,122名		
	参加者満足度	4	アンケートにて、93%のお客様から「とても良い」・「良い」の評価をいただいた。		
	市民参画・協働の成果はあったか	4	出品作家である本橋成一氏監修のもと展示構成することができた。また、イベント等も多数開催し、参加者も多かったため、協働の成果はあったと考える。		
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	5	出品作家である本橋氏に監修いただいたため、これ以上ない質を提供できた。		
	ターゲットを意識した企画であったか	3	春の行楽シーズンのため全国から集る奈良ファンや写真愛好家を対象に、世界的にも著名な写真家・映像作家である本橋成一氏を取り上げた。		
総合評価(自動計算)		4			
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本橋成一氏の写真に感動しました。言葉なく大いに語る写真でした。 ・写真というものの価値を感じました。またモノクロの持つ“心”のようなものを感じました。 <p>(協働者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入江先生の写真美術館で自身の写真展が開催出来ることを大変光栄に思った。写真芸術の発信拠点としてこれからも写真美術館を活用してほしい。 			
総括	評価年度の状況		改善案・次年度以降の目標		
	日本写真界の現役の写真家の中でも異彩を放つ本橋成一氏を取り上げたことで、写真界のみならず各方面から注目される事業となった。本橋氏は、チェルノブイリ原発の取材の中で事故後の人々の暮らしを取り上げてきたこともあり、東日本大震災による原発事故の爪あとが今だ癒えぬ日本の状況から、原発を改めて考え直す社会的意味合いが強い写真展となった。		今後も写真界の動向を調査し、今話題の写真家、実力ある写真家、今後の活躍が期待される写真家などを取り上げ、写真専門の美術館としての責務を果たしていく。		

奈良市文化振興計画 事業評価シート(平成29年度)

事業名		高畑探検隊15		担当課 施設名	(入江泰吉記念奈良市写真美術館)
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(8) - ①
	基本施策	2-05	文化振興		
	施策	2-05-01	文化の振興		
実施形態	単発・ 継続	事業開始年	平成13年度	実施回数	1回
日時	平成29年8月21日		会場	入江泰吉記念奈良市写真美術館～奈良公園	
目的	写真文化の普及や発展のみならず、夏休みの子供向け事業として写真美術館が位置する奈良公園界隈の自然について学んでいただくことを目的とする。				
内容	高畑界隈から奈良公園の生態系について学んでいただく。				
事業費(円)					
			歳入		歳出
予算	市費(指定管理料等)		その他収入 (事業収入等)	40,000	40,000
決算	市費(指定管理料等)		その他収入 (事業収入等)	26,000	26,000
事業成果					
アンケートの集計			配布数: -	回収数: -	回収率: -
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)		
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	目標を達成した。 目標値: 参加者50名 実績値: 参加者数54名		
	参加者満足度	5	参加者は熱心に講師の話しに耳を傾け、館外活動でも積極的に奈良公園の生態系の調査に取り組めたところを見ると参加者の満足度は高かったと考えます。		
	市民参画・協働の成果はあったか	4	動植物や自然の生態系を専門とする講師の谷幸三先生をお招きすることで、イベントへの注目度も上がり多くの市民の方々にご参加いただけた。		
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	5	全国的に有名な谷幸三先生に講師を務めていただくことで、これ以上ない質を確保できた。		
	ターゲットを意識した企画であったか	4	夏休みのイベントということで、親子をターゲットにした。		
総合評価(自動計算)		4			
参加者や協働相手からの意見		(参加者) ・身近にある奈良公園の生態系を学べてよかった(親)。 ・谷先生のお話がおもしろく、奈良公園の自然を大切にしようとおもった(子)。 (協働者) ・十数年毎年続けているイベントであるが、毎年子供たちの感動が伝わってくる。熱心に奈良公園の生態系を学んでいただくことが、日本の自然環境を護る礎になると信じている(谷)			
総括	評価年度の状況		改善案・次年度以降の目標		
	一時期、本事業の参加者も減少傾向にあったが、学校やメディア等で環境問題が取り上げられることが多くなったこともあり、参加者が増加傾向にある。本年度についても熱心な親子参加者が大多数をしめ、事業は成功したといえる。		今回で16回目の事業ということもあり、内容のマンネリ化が見うけられる。毎年参加していただいている参加者にも新たな発見をしてもらえるような内容を考えていく。		

奈良市文化振興計画 事業評価シート(平成29年度)

事業名		アトリエ開放		担当課 施設名	(文化振興課 入江泰吉旧居)
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(16) - ②
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興		
実施形態	単発・継続	事業開始年	平成28年度	実施回数	年2回
日時	①平成29年5月3日～7日 ②平成29年12月2日～3日		会場	入江泰吉旧居	
目的	奈良大和路の写真家・入江泰吉を顕彰し旧居の保存活用をはかる。その一環として大和路撮影の構想の原点である書齋と忙しい撮影の合間に楽しんでいた余技(油絵、彫刻、書など)制作の現場であるアトリエを開放し、入江泰吉の理解を深めていただく。				
内容	普段は立ち入り禁止のアトリエ部分に入っただき、入江泰吉の理解を深める。あわせてスタッフ立会いのもと、記念撮影も可とする。(①5月3日～7日/②12月2日～3日と年2回実施)				
事業費(円)					
			歳入		歳出
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	0	0
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	0	0
事業成果					
アンケートの集計		配布数: 無	回収数:	回収率:	
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)		
成	参加者数・参加率の達成度	2	①入館者数、158人に対し、28名(18%) / ②入館者数68人に対し、39名(57%) 目標値:①100名 / ②40名 実績値:①28名 / ②39名		
	参加者満足度	3	参加した方は、入江泰吉の理解を深める機会を提供できたと思われる。		
果	市民参画・協働の成果はあったか	3	文化創造アルカと協働し、入江の考えや大和路に対する思いを伝えることができたのではと考えている。		
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	旧居のコーディネータ(文化創造アルカ)、スタッフが担当。		
	ターゲットを意識した企画であったか	3	入江ファン、奈良好きな人を対象としている。		
総合評価(自動計算)		3			
参加者や協働相手からの意見		(参加者) 「先生の仕事部屋からの紅葉を見たかった」、または「心の休まる時間を過ごせました」「期待通りの隠れ家でした」など評価は高い。 (協働者) まだまだ入江泰吉旧居の認知度が低く、広報不足な点が否めない。			
総括	評価年度の状況		改善案・次年度以降の目標		
	入江泰吉の居住空間から大和路に対する思いや撮影姿勢が実感できる試みだったのではと思われるが、まだまだ周知されていない。そのなかで秋の季節、特に紅葉シーズンは旧居めがけて訪れる人も多くなってきている。		3年目となり入館者数も減少し、それと同調するようにイベントも少なくなっている。再度、旧居の周知とイベントの案内についての広報に努めたい。あわせてイベント内容の充実をはかりたい。		

奈良市文化振興計画 事業評価シート(平成29年度)

事業名		①夏休み親子ピンホールカメラ教室(全2回) ②ピンホールカメラ体験(全1回)		担当課 施設名	(文化振興課 入江泰吉旧居)
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(1) - ① (16) - ②
	基本施策	2-05	文化振興		
	施策	2-05-01	文化の振興		
実施形態	単発・継続	事業開始年	平成28年度	実施回数	年3回
日時	①平成29年7月30日、8月5日(全2回) ②平成30年3月21日(全1回)		会場	入江泰吉旧居	
目的	奈良大和路の写真家・入江泰吉を顕彰し旧居の保存活用をはかるとともに、若い世代に写真文化の普及と発展を目的に開催する。				
内容	①、②若い世代、小学生をターゲットに写真やカメラの歴史、原理を親子で学び体験していただく。その一方で、大人向けのピンホールカメラを実施し、カメラの原理と暗室体験を行い写真表現の魅力を伝える。また写真家・入江泰吉が使っていた暗室を利用することで、入江作品の理解につながる良い機会とする。				
事業費(円)					
		歳入			歳出
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	23,000	23,000
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入 (事業収入等)	8,750	8,750
事業成果					
アンケートの集計		配布数:	無	回収数:	回収率:
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)		
成	参加者数・参加率の達成度	5	①定員各5組の親子に対し17名(12組)参加 / ②定員5名に対し、4名の参加 目標値:①10組 / ②5名 実績値:①17名 / ②4名		
	参加者満足度	4	参加された多くは初めての体験であり、興味を持って取り組めたとと思われる。		
果	市民参画・協働の成果はあったか	4	写真美術館と協力、写真普及活動に努めた。なお①親子ピンホールカメラ教室については学芸員取得見込の大学生(博物館実習生)と協力して行うなど、滞りなく作業ができた。		
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	写真美術館学芸員が担当。旧居のスタッフをはじめ、親子で作るピンホールカメラ教室では博物館実習生がサポートにあたり、子どもの安全確保、学習への取り組みに努めた。		
	ターゲットを意識した企画であったか	4	若い世代から大人なまでと、幅広く写真の魅力を伝えることができたと思われる。		
総合評価(自動計算)		4			
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者) 「現像で写真が浮かびあがってきてびっくりした」、「自分で作ったカメラで撮影、現像、プリントまでできてよかった」「面白かった」など、好意的な評価が多かった。</p> <p>(協働者) カメラの原理としくみを学ぶには、ピンホールカメラは有効であると思われる。しかし暗室が広くないため、大人数の参加は見込めない点が短所である。</p>			
総括	評価年度の状況			改善案・次年度以降の目標	
	暗室作業での体験は、写真の魅力を広げるとともに写真文化の発展につながると思われる。特にピンホールカメラは、カメラの原理としくみを学ぶ方法の一つとして有効であると思われる。自身が撮った写真を、暗室で現像、プリントする一連の作業は、写真の魅力を伝える良い機会だととらえている。 ※旧居敷地内のケヤキ、カキの枝木が落木する恐れがあるとのことで9月17日から1月28日まで庭の通行を禁止。よって暗室体験を2回する予定であったが、年度末に1回のみとなった。			①の親子ピンホールカメラ教室は今後も充実、継続していく事業である。②のピンホール体験については、大人の方も楽しめるように企画したもので、今後、充実をはかる予定。暗室が広くないため定員数はあまり増やせないが、回数を増やすなど対応を考えたい。	

奈良市文化振興計画 事業評価シート(平成29年度)

事業名		大和路撮影考		担当課 施設名	(文化振興課 入江泰吉旧居)	
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(1) - ②	
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興			
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成29年度	実施回数	年1回
日時	①平成29年9月18日		会場	入江泰吉旧居		
目的	奈良大和路の写真家・入江泰吉を顕彰し理解を深める事業の一環として、現在活躍している写真家の視点から大和路の魅力を知っていただく。入江がこだわり続けた奈良大和路の魅力を知ることができる機会とする。					
内容	現在、活躍している写真家の視点から今の奈良大和路の魅力をスライド上映し解説していただく。演題「秋から冬へ」 講師：桑原英文（入江泰吉助手）					
事業費(円)						
		歳入			歳出	
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入(事業収入等)	0	0	
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入(事業収入等)	4,000	4,000	
事業成果						
アンケートの集計		配布数： 無	回収数：	回収率：		
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)			
成 果	参加者数・参加率の達成度	5	定員20名に対し、20名の参加があった。 目標値：20名 実績値：20名			
	参加者満足度	4	スライド上映された美しい風景から、奈良の新しい魅力を発見できたと思われる。			
	市民参画・協働の成果はあったか	4	写真家・桑原英文と協働し、現在の大和路の魅力を伝えることができたのではと考えている。			
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	スタッフが担当、桑原氏とテーマや写真上映等について議論、調整をはかった。			
	ターゲットを意識した企画であったか	4	奈良好きな人を対象としている。			
総合評価(自動計算)		4				
参加者や協働相手からの意見		(参加者) 「奈良でこんな美しい場所があったなんて」、「こんな場所知らなかった」「知っている所だが、写真でみると全然違って見えた」など、高評価。 (協働者) 身近にある奈良の風景でも季節や自然現象の一端によって見え方が変わること伝えたいと桑原氏と打合せを行った。ねらいとしては成功したと思われる。				
総括	評価年度の状況		改善案・次年度以降の目標			
	3年目突入し、入館者数も減少傾向にあるなかで、写真文化の活性化と奈良の魅力アピールすることを目的に「大和路撮影考」を立ち上げた。現在も奈良を撮っている写真家は多く存在し、その方々の視点から見直すというものであった。現在の風景であるが、入江が騒がそうとしていた奈良の風景とは如何なるものかを知る手助けになったと思われる。		新年度に入って、新規事業を立ち上げたもので予算化していなかったこともあり、謝金なしでお願いした。今後は、継続事業として予算化し、活躍されている写真家の視点から奈良の魅力と入江作品の理解の一助として続けていく予定である。			